

## 特集——統計数理研究所創立40周年記念シンポジウム

## 数式処理と統計解析の接点

開催日：1984年11月8日～9日

オーガナイザー：仁木 直人，小西 貞則，安芸 重雄（統計数理研究所）

強力な研究道具として，広範囲の分野に『記号処理・数式処理システム』が積極的に使われるようになってきた。統計解析に関連した分野でも，簡単な式の計算から，理論や手法のチェック，複雑かつ大規模な理論式の導出まで，有効に利用できる面も多いと思われる。

このシンポジウムは，数式処理システムの現状を，主に統計解析に関係する研究分野への応用という形を通して把握し，より一層の応用の広がりを目指して開催された。70名を越える出席者を得て活発な討論がなされ，統計関係者のみならず，数式処理関係者からも非常に有益であったとの評価を受けている。

シンポジウムの報告集は85ページから成り，『数式処理通信』誌第2巻4号（通巻8号，1985年2月）にも採録されている。ここでは，講演内容の簡単な要約に留めるので，詳しい内容を知りたい場合には，統計数理研究所 仁木直人，または，『数式処理通信』発行元のサイエンティスト社（電話 03-253-8992）に問合わせ願いたい。

なお講演内容の要約は仁木が担当した。

## プログラム

佐々木建昭（理化学研究所）	数式処理の現状と将来
一松 信（京都大学）	数式処理の応用——統計計算を中心に
田中 勝人（一橋大学）	時系列解析における数式処理言語の応用
橋本 明浩（千葉大学）	An algorithm for calculating cumulants by moments
仁木 直人，小西 貞則（統計数理研究所）	数式システムによる標本分布の高次漸近展開
安芸 重雄（統計数理研究所）	数式処理の多次元解析への応用
桂 重俊，益子 統一（東北大学），増子 進（富士通）	パーソナルコンピュータにおける数式記述用ワードプロセッサ
古川 昭夫（東京都立大学）	Latticeを用いた因数分解法——因数分解の歴史と到達点——
藤瀬 哲朗（三菱総合研究所），小林 英恒（日本大学）	ハイブリッド処理による連立代数方程式の解法
仁木 直人（統計数理研究所）	有限体での演算と多次元擬似乱数
若林 信夫（小樽商科大学）	数理経済学における『数式処理』の現状について

村尾 裕一（東京大学）

計算機センターにおける数式処理システムの利用  
状況と運用 —— 東京大学大型計算機センターの  
場合 ——

鎌倉 稔成（統計数理研究所, 1985年4月より中央大学）

尤度計算における数式処理言語の利用